都道府県別賞一等

支えたいという想い

京都府　京都市立桃山中学校　一学年

髙居　実央

「早く元気になってね。」

私は八歳の頃、この言葉を毎日手紙に書いていました。交通事故で入院した友達に、一日でも早く元気になってほしいという思いを込めた言葉です。当時の私は、その手紙が友達の支えになるとは思っていませんでした。しかし、この経験が今の私の考え方や将来の夢につながる大切な出来事となりました。

友達と遊んでいたある日、目の前で友達が交通事故にあいました。突然の出来事で何が起こったのか分からず、私はただ立ち尽くすことしかできませんでした。いつもと変わらない一日だったはずなのに、一瞬で日常が変わってしまったことに大きな衝撃を受けました。その後、友達は骨折をして入院しましたが、命に別状はないと聞き、本当に安心しました。同時に、『もし少し状況が違っていたら。』と考え、事故や病気は誰にでも起こる可能性があることを実感しました。

入院中の友達に、私は毎日手紙を書きました。「早く元気になってね。」という言葉と、学校であった出来事を書き、少しでも笑顔になってほしいという思いを込めました。私にできることは小さなことしかありませんでしたが、友達が学校へ戻ってきた日、安心したような笑顔で「ありがとう。」と言ってくれました。その一言がとてもうれしく、人を支えることは、相手を思いやる気持ちから始まるのだと学びました。

学校で生命保険について学んだとき、私は自然とこの出来事を思い出しました。それまでは生命保険は大人が入るものというイメージしかありませんでした。しかし、生命保険は病気や事故など、いつ起こるか分からない出来事に備え、家族の生活や安心を支えるための仕組みだと知りました。

学習の後、私は母にどうして生命保険に入っているのか、と聞きました。すると母は、何かがあったときのための備えだ、と答えてくれました。その言葉を聞き、生命保険はお金のためだけでなく、大切な人を守りたいという思いやりが込められたものなのだと感じました。

私の母は看護師です。母が働く姿や患者さんに寄りそう看護師の姿を見て、私も看護師になりたいと思うようになりました。友達へ手紙を書いた経験や生命保険について学んだことで、看護師は患者さんやその家族に安心を届ける仕事なのだと感じるようになりました。

生命保険は生活を支え、看護師は命や心を支えます。支え方は違っても、その二つには『大切な人を守りたい。』という思いがあります。私も将来は、母のように患者さんやその家族に寄りそい、『あなたがいてくれてよかった。』と思ってもらえる看護師になりたいです。「早く元気になってね。」という言葉に込めた思いを忘れず、人を支え、安心を届けられる人へ成長していきたいと思います。